

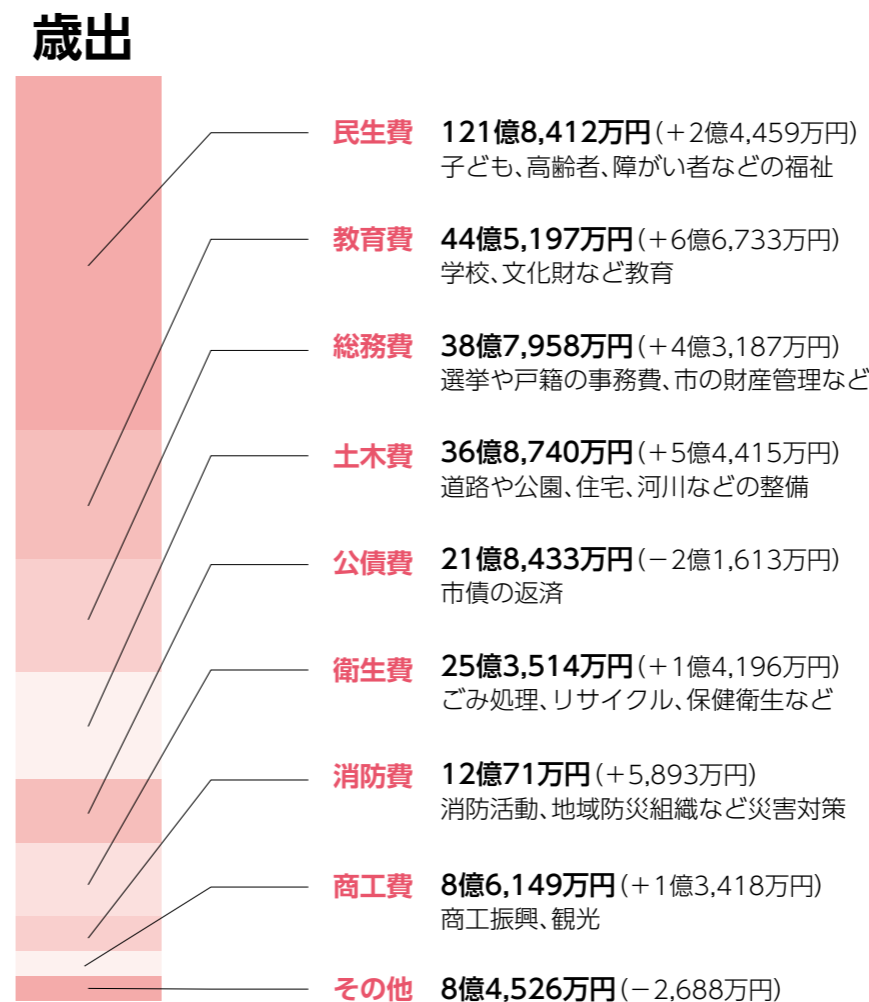
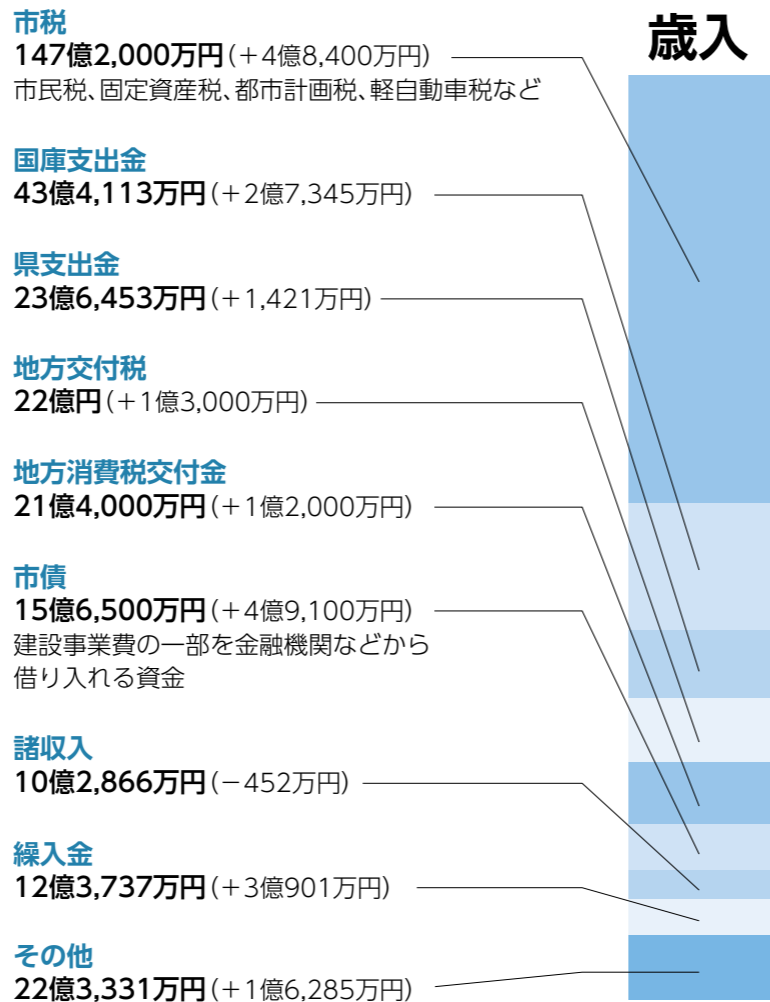
令和5年度の予算

318億3,000万円 (カッコ内は前年度比)

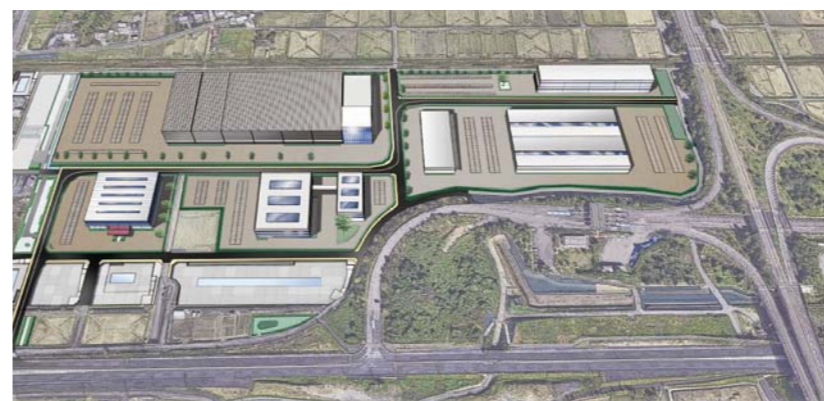
一般会計

特別会計	
会計	金額
国民健康保険事業	107億2,000万円
後期高齢者医療	16億5,400万円
介護保険	79億7,670万円
自家用工業用水道事業	1億6,200万円
農業集落排水事業	1億6,300万円
可児御嵩インターチェンジ工業団地開発事業	11億7,300万円
財産区	5,160万円
合計	219億30万円

企業会計	
会計	金額
水道事業	32億4,900万円
下水道事業	48億500万円
合計	80億5,400万円



令和5年度予算は、一般会計と特別会計へ企業会計を合わせて総額617億8430万円となり、過去2番目に大きな規模となりました。歳入は、コロナ禍からの回復などによる市税や地方消費税交付金が増加、歳出は、可児市運動公園(坂戸)の整備や公共施設の照明LED化、(仮)可児御嵩インターチェンジ工業団地(柿田)の第2工区造成工事の開始、被保険者の増加に伴う介護保険給付費などの増加などにより、前年度と比べて増加しました。



(仮)可児御嵩インターチェンジ工業団地の完成予想図

行政のデジタル化や脱炭素化の推進、4つの重点方針に基づく事業を引き続き進めるとともに、民間企業などのアイデアやノウハウを活用するなど、さらなる公民連携に取り組み、市民の皆さんに可児市に住み続けたいと思ってもらえるような新たな魅力づくりに積極的に取り組みます。

今年度の主な事業

デジタル化推進
窓口キャッシュレス決済を導入

証明書の発行手数料など、窓口での一部支払いにクレジットカードや電子マネー、QRコードの決済が使えるようになります。キャッシュレス決済が使える対象は、順次増やしていきます。
証明書の申請手続きがスムーズに
住民票などの交付手続き時に申請書の記入が不要になる「かんたん窓口サービス」を導入し、窓口の待ち時間を短縮します。

脱炭素化推進
太陽光発電設備などの設置を支援
住宅に太陽光発電設備や蓄電池を設置する費用を助成し、二酸化炭素を排出しない再生可能エネルギーの利用を促進します。

公共施設や道路の照明をLED化
小中学校や地区センター、道路などの照明をLED化し、二酸化炭素の排出量を削減します。

保育の支援体制を強化

医療的ケアを必要としたり、発達に課題を抱えたりする子どもが安心して通園できるよう、看護師や加配保育士を増員するなど受け入れ体制を強化します。

高齢者の安気づくり

認知症の人とその家族の安心を
市が、認知症の人が日常生活における偶発の事故によって損害賠償責任を負った場合に対応する保険に加入し、認知症の人とその家族を支援します。

まちの安全づくり

安定して水道水が供給できるように
災害時にも安定して水道水が供給できるように、水道管の耐震化を図るなど、インフラの整備を計画的に進めます。

市内の道路を安全・快適に
団地内などの生活道路を安全・快適に通行できるように、道路の舗装改良工事を計画的に進めます。

子育て世代の安気づくり
不登校の子どもとその家庭を支援
学校に行きたくても行けない子どものための教室であるスマイリングルームに子どもと学校、家庭をつなぐ「つながりサポーター」を新たに配置し、タブレットの活用や家庭訪問などを通じた不登校支援を行います。
また、市民団体メンバーなどで構成する不登校支援の検討委員会を新設し、子どもや家庭を孤立させない支援体制を構築します。



可児市運動公園の完成予想図

地域・経済の元気づくり

可児市運動公園について、防災拠点としての機能を強化するとともに、サッカー、野球、ホッケーなどの競技場として、また健康づくりや多世代交流の場として、多くの人が集う総合的な体育施設を目指して整備を進めます。

予算を分かりやすく伝えるためのパンフレットを作成しました

詳細は市HPをご覧ください